



きゅうしょくだより

平成30年度
栄南小学校

2月3日(日)の「節分」は春の始まり「立春」の前日です。暦の上では春とはいえ、寒さはまだまだ厳しいです。食事の手洗い、栄養バランスのとれた食事、そして、十分な睡眠をとって元気に春を迎えましょう。



2月の行事と食べ物

2月にも行事とそれに関係する食べ物があります。そこには健康や幸せ、物を大切にする日本人の思いが込められています。

2月2日 “初午” と “いなりずし”



初午とは、2月の最初の「午の日」をさし、稲荷神のお祭りが行われる日です。稲荷神は農業や商業の神様です。その神の使いであるきつねの好物が油揚げと考えられていて、油揚げをお供えします。そこから油揚げを使った料理を「いなり」と呼ぶようになりました。初午には、稲荷神にいなりずしをお供えしていただきます。



12日(火)の給食は、初午にちなんで、「肉詰めいなりの茗め煮」を出します。

2月3日 “節分” と “福豆”、 “いわし”



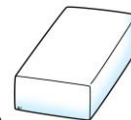
【ヒライギワシ】

節分には、大豆を炒った福豆をまいて鬼(病気や災難を引き起こすもの)をはらい、福豆を食べて1年の健康や無事を願います。家の戸口にヒライギワシ(ヤイカガシ)を飾る地域もあります。焼いたイワシの頭をさしたもので、ヒライギのトゲとイワシのにおいで、鬼を追い払います。



1日(金)の給食は、節分にちなんで、「いわしの蒲焼き風」「節分豆」です。

2月8日 “針供養” と “豆腐”、 “こんにゃく”



2月8日を「事始め」、12月8日を「事納め」といって、使い込んで折れたり、曲がって使えなくなった針を集め、豆腐やこんにゃくなど柔らかいものに刺したり、紙に包んだりして供養し、針仕事の上達を祈ります。いつも硬いものばかり刺して苦労をかけた針に、せめて最後は柔らかいものの上で休んでもらおうという日本人の優しさがうかがえる行事です。

